

透析患者における

アドバンスケアプランニングの認識調査

医)城南会 西條クリニック鷹番 透析室看護課

○藤田菊恵、平野典子、村井佑衣、佐野志津子、下村汐里、
竹村史子、神岡秀美、西條公勝

【背景】

透析患者の高齢化に伴い、腎臓病以外の疾病で人生の最終段階を迎え、透析の見合わせを検討をしなければならないケースが増えている。

2014年に日本透析医学会により「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」が提示された。

しかし医療者と透析患者・家族が透析医療の現場で「死を直視した話し合い」の機会をもつことは少ない。

当院でも進行癌が見つかり、緩和ケアを開始した透析患者を経験した。アドバンスケアプランニング（以下ACP）を用いた意思決定のサポートと、それに沿った終末期のケアに対応していく必要があると考えている。

【目的】

透析患者におけるACPの認知度や自分自身の最期についての考えを調査し、ACP導入、促進のための足掛かりとすること。

【方法】

(研究期間) 2022年4月～6月

(対象) 人生を自分自身で考える事ができる自立した透析患者68名

(方法) 聞き取り意識調査

聞き取りは、ACP研修を受講したスタッフが実施した。

【倫理的配慮】

個人が特定されないように配慮した。

【患者背景】

当院透析患者

総患者数85名

人生を自分で考える事が出来る患者68名

男性 48名

女性 20名

平均年齢

男性 70.4歳

女性 68.2歳

原疾患

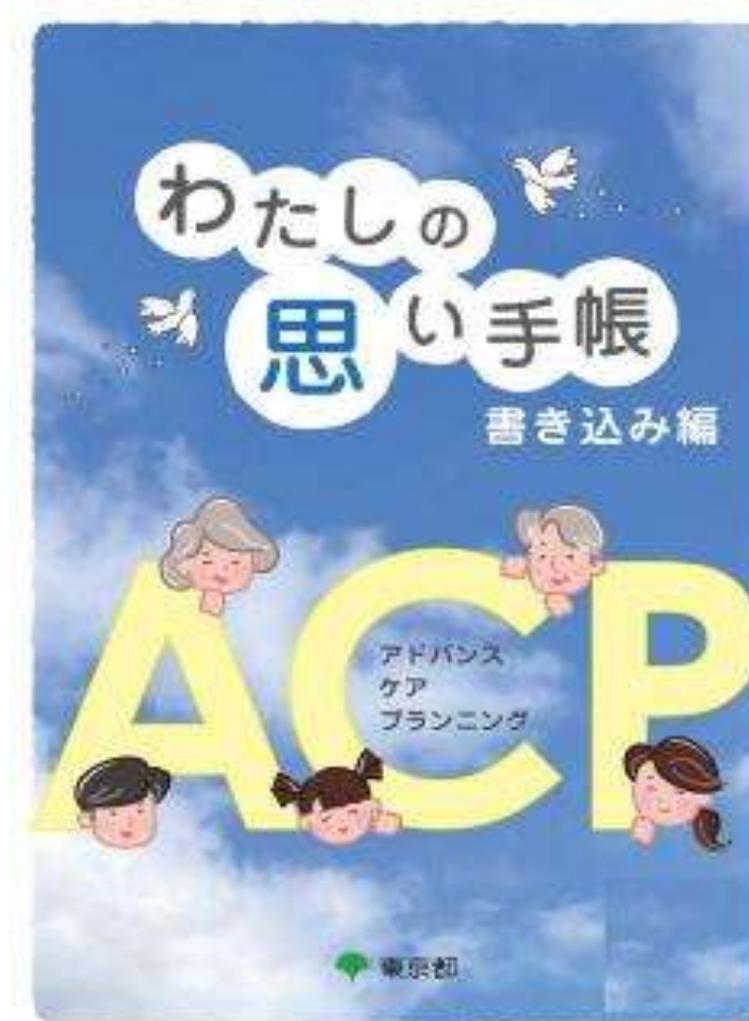
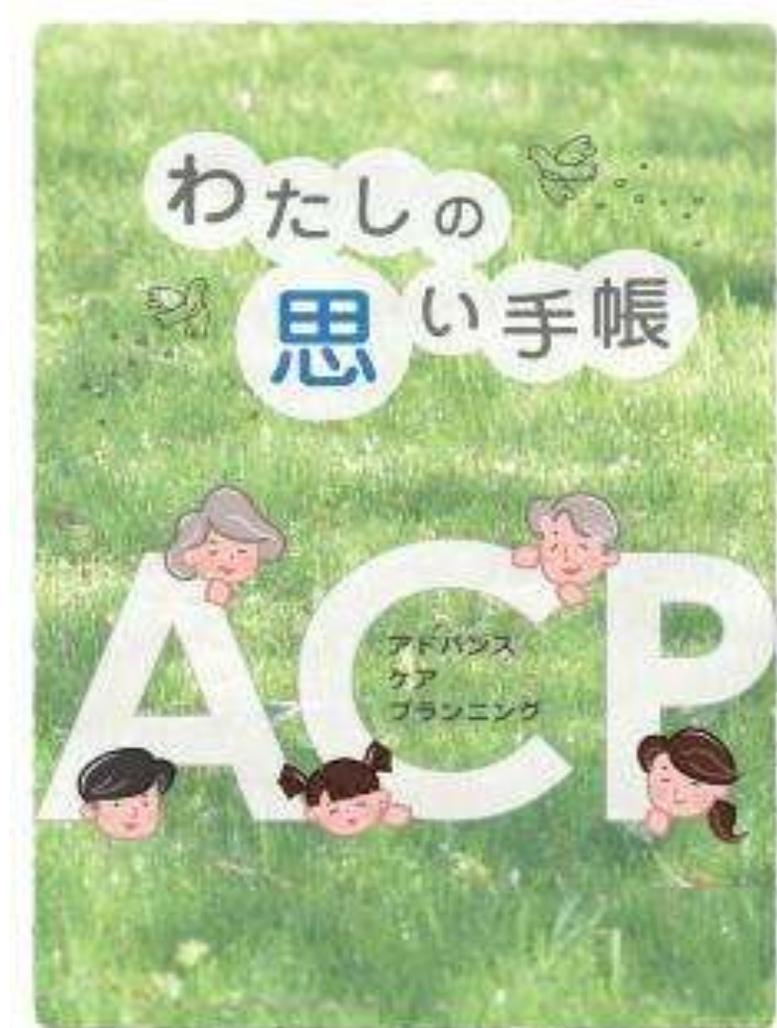
糖尿病性腎症 23名

腎硬化症 9名

慢性糸球体腎炎 8名

その他・不明 28名

東京都福祉保健局 ACP普及啓発小冊子「わたしの思い出帳」を使用してACPについて説明し、その後に聞き取り調査を行った。

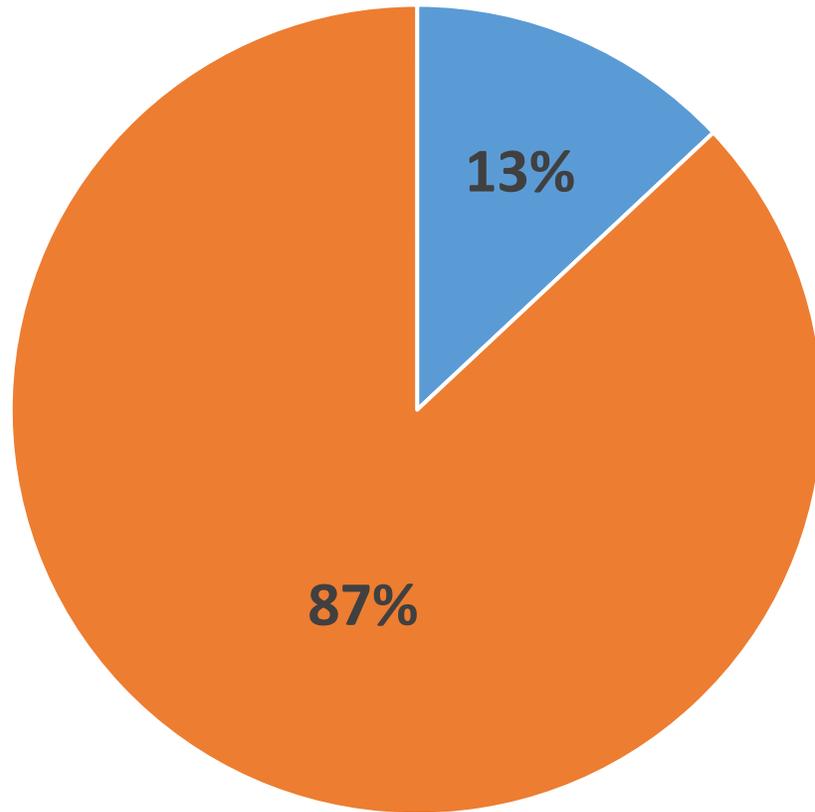


アンケート調査項目

1. 「ACP」をご存知ですか。
2. 自分は、どのように過ごしたいか考えたことはありますか。
3. 上記について、家族や知人など、話し合える方は
いらっしゃいますか。
はいとお答えの方で、差し支えなければどなたかご記入ください。
4. 「ACP」について、当院のスタッフと一緒に始めてみたいと
思いますか。
5. その他、ご意見等ございましたらご記入ください。

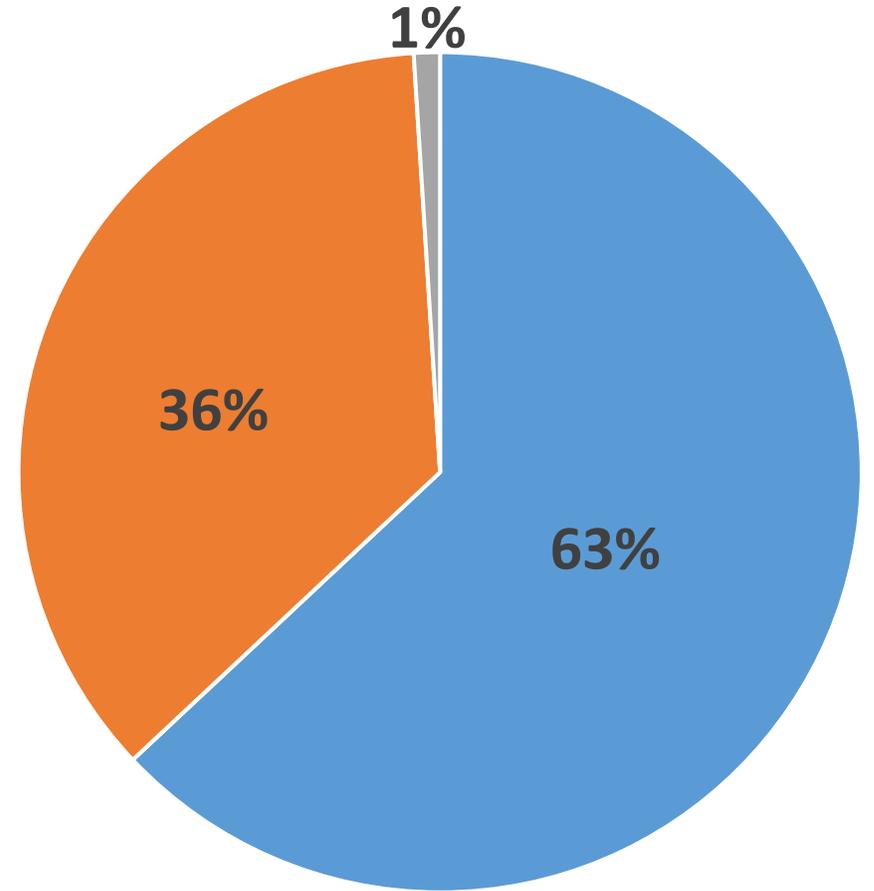
【結果】

1. ACPをご存知ですか



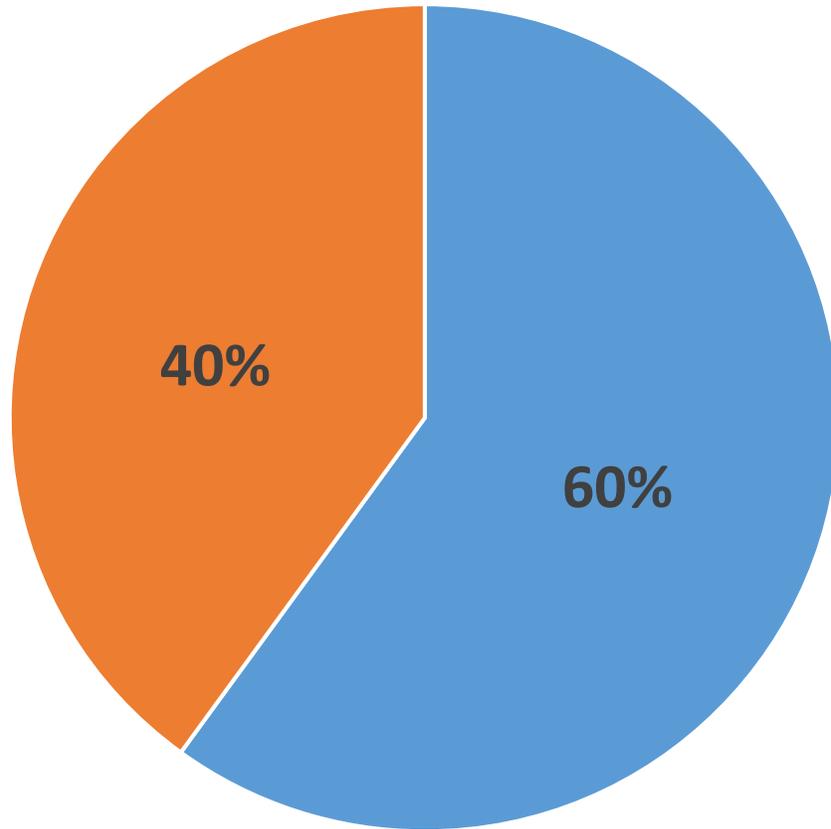
■ はい ■ いいえ

2. 自分はどのように過ごしたか 考えたことはありますか



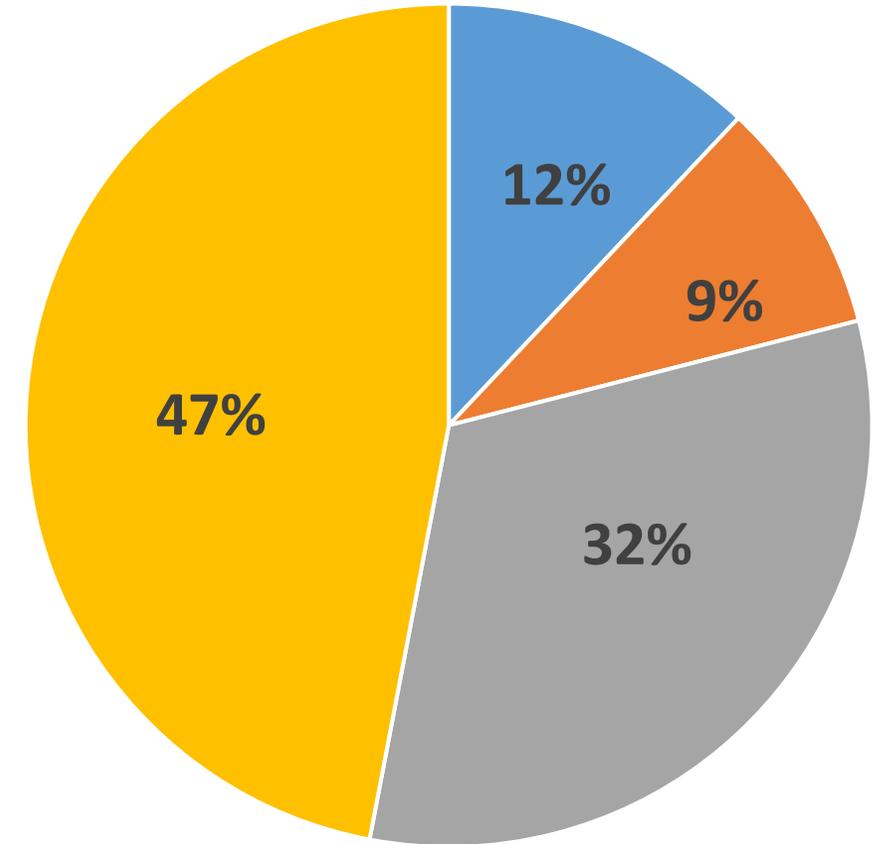
■ はい ■ いいえ ■ 無回答

3. 2について、家族や知人など話し合える方はいますか



■ はい ■ いいえ

4. ACPについて、スタッフと一緒に始めてみたいですか



■ はい ■ いいえ ■ わからない ■ 無回答

5.その他の意見

- 今を生きている。自分のポリシーがある。
- 事業を始めたため、今はあまり考えられていないから、子どもともその後話せていない。
- 成るようになる。流れに任せて生きていきたい。
- ACPではないが財産や段取り、その先については話をしている。
- 今はそのような話はしたくない、その時がきたら考える。
- 子供に迷惑をかけたくない。

【考察】

「終活」や「エンディングノート」という言葉は聞いたことがあるが、「ACP」という言葉や内容についての認識度は13%であった。「透析導入の時、人生について色々考えた。」や「今は、あまり考えたくない。」などの意見が多数であった。

一方で人生の最終段階を見据えて、自身の急変時の対応や財産などを家族に周知している患者もおり、何らかの形で考えている患者がいることが把握出来た。

【結語】

アンケートの結果からは透析患者のACPに対する認識度は低く、今のところは前向きな意見は少なかった。

今回の調査をきっかけとして、日々の患者とのコミュニケーションや、11月30日の「人生会議の日」を活用して啓蒙を行い、ACPを少しずつ浸透させていきたい。

日本エンドオブライフケア学会 COI 開示

筆頭発表者名： 藤田 菊恵

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある企業などはありません。